DEEP&NEW

OSHIKA

歴史と創造にあふれた魅惑の半島、牡鹿へ。

ようこそ！
牡鹿半島へ

Welcome to
DEEP & NEW OSHIKA

宮城県石巻市の南東に位置する牡鹿半島。
ヨーロッパを目指した慶長遣欧使節が
400年前ここ牡鹿から旅立ちました。そして現在、
震災で大きなダメージを受けた漁村集落が少しずつ
新しい取り組みを発信しています。歴史の深さと
未来の新しさが交差する牡鹿半島に出かけてみませんか。

Oshika Peninsula in the southeast of Ishinomaki, Miyagi, once devastated by the Great East Japan Earthquake, has been seeing the all-out efforts contributed to by the fishing villages in the peninsula. This is where one of the historic mission embarked on a journey to Western Europe in the early 17th century. You will be greeted by a mixture of art created through history and new generation in Oshika.

CONTENTS

04 DEEP OSHIKA / NEW OSHIKA

06 中沢新一 インタビュー

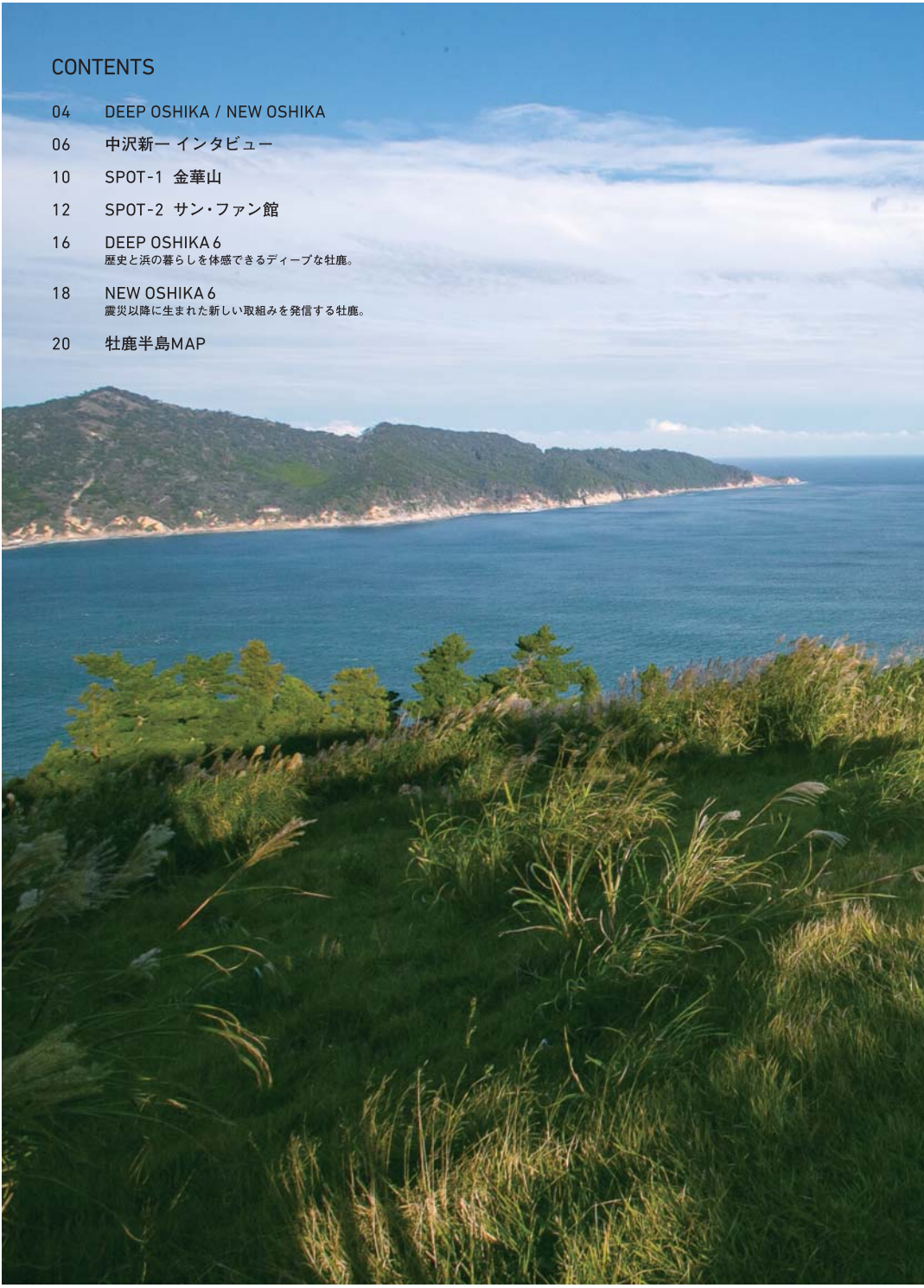
10 SPOT-1 金華山

12 SPOT-2 サン・ファン館

16 DEEP OSHIKA 6
歴史と浜の暮らしを体感できるディープな牡鹿。

18 NEW OSHIKA 6
震災以降に生まれた新しい取組みを発信する牡鹿。

20 牡鹿半島MAP



DEEP OSHIKA

ディープな牡鹿

伊達政宗の命を受け慶長遣欧使節が牡鹿半島からヨーロッパに旅立ったのは、今から約400年前。江戸時代中期以降は金華山参りをしに多くの人が半島を往来しました。網地島、田代島といった独自の島の文化や、漁業を生業の中心とする各浜には魅力的な暮らしや歴史があり、現代では半島全域に生息する鹿を活用した料理やアクセサリーが生まれています。牡鹿には時間を重ねることで蓄積されたディープな魅力が詰まっています。

It is over 400 years ago that Masamune Date, the first Lord of Sendai Domain, Miyagi, dis patched an envoy to Western Europe from Oshika Peninsula. On the southeast is Kinkasan, a small island that is one of the Three Holiest Places in the Tohoku region, which became a popular site for a number of people to go out of their way to to pray for financial pros perity after around the middle of Edo Period (1603-1868). All the villages boasts fishery and possesses fascinating history and living, and the neighboring islands such as Ajishima and Tashirojima cherish each dis tinctive custom those have es tablished. Nowadays, you can enjoy venison cuisine as well as accessories made from deer inhabiting all over the peninsula. Aging deepens the beauty of Oshika.

牡鹿半島の付け根に位置する鮎浜には古民家を改装したCafe はまぐり堂（P18）がある。その入口ににツリーハウスが建つ。MAP - A

NEW OSHIKA

新しい牡鹿

世界三大漁場のひとつに数えられる金華山沖。そこで獲れた豊富な水産資源とともに暮らしを営んできた牡鹿半島の人々。点在する各浜には独自の暮らしがあり、今、少しずつ変化が起こっています。東日本大震災で大きなダメージを受けた集落から生まれたカフェ。まったく新しい発想でまちづくりをはじめた港町。ここに来れば、雄大な自然とともに営まれてきた暮らしと、今まさに生まれている新しさに触れることができます。

Oshika Peninsula proudly owns one of the world's three major fishing grounds. Their living has flourished with rich fishery resources offshore Kinkasan, and fishing largely bolsters the livelihood of the local people throughout the peninsula. Scat tering each village with indi vidual style of living is taking still baby, but big steps-Rising up and starting all over again, all the local people are making concreted efforts to develop new port towns by adopting fresh perspectives and creat ive sense. You find a new café and other things drastically transformed from marginal area that were once devast ated by the 2011 Great East Japan Earthquake. Once step ping foot into here in Oshika, you will meet and feel their life led by the blessed nature and emerging new ideas.

思想家・中沢新一が語る

僕はなぜ“牡鹿”に魅せられるのか？

Shinichi Nakazawa talks “The Reason I like Oshika”

2017年夏、牡鹿半島を舞台にアートフェスが開催される。
その制作に携わる中沢先生が、この地域に根付く
歴史と文化の魅力を多角的な知見から説く。

なかざわしんいち

1950年生まれ。思想家・人類学者。東京大学大学院人文科学研究科修士過程終了。現在、明治大学野生の科学研究所所長を務める。

地名から読み解く牡鹿の起源

ひと言で東北と言っても、歴史を調べていくと内陸部と海岸部では、その起源にずいぶん違いがあります。史実が幾層にも重なって、今に至っているんですね。太平洋側に暮らす人々の心の奥底には、古くから海洋へと出て行こうとする精神性が宿っていました。とくに東北の海岸部にある「海の文化」の中心地が、牡鹿半島だったと僕は思っています。

牡鹿半島のように「鹿」が付く地名には、倭人系海人の安曇族と関係していることが多いんです。安曇族の拠点は志賀島。鹿が多く生息する九州の博多湾に位置する島です。そこから日本中に氏族が散っていくのですが、彼らが住みついた地域に建立された神社には、「鹿」の字が付いていると言われます。じつは牡鹿半島の「鹿」も、それと関係してるのではと僕は睨んでいます。

日本では鹿の存在は神と同一ですが、人間だけは鹿を神様のプレゼントとして、食べることが許されてきました。牡鹿半島には、近年鹿が増えてきて、地元でも鹿肉を扱う店がありますね。金華山に生息する鹿は、ジオパークという観点から見ても興味深いのですが、同時に今後、鹿を使ったジビエ料理や鹿革細工などが、重要な観光のコンテンツになるのではと思います。

東北に残る修験道の成り立ち

修験道の舞台として知られる金華山は、恐山、羽山三山とならぶ奥州三大霊山のひとつ。修験道とは、山に籠もり修行をし、悟りを得ることを目的とした日本独自の宗教形態です。ほかにも月山（山形県）や白山（石川県）など、比較的、内陸部の高い山で行われていました。内陸と言っても、実際には、それらの山々は海から見える場所にあり、航海者たちの目印の役割も果たしていました。鳥海山（山形県と秋田県にまたがる）なんかもそうですね。

なかでも金華山は象徴的です。実際に登ってみると、山の中に籠り、生まれ変わるという山伏（修験者）の思想がひしひしと伝わってきます。まさに修験道の理想的な場所であり、東北の修験者たちの主要地になりえた理由も分かります。僕は、これまで金華山を2度訪れました。じつは東北には、完全に神仏が分離している神社やお寺がありません。いわゆる神仏習合で、羽黒山にある羽山三山神社は、もともとはお寺です。金華山の黄金山神社もそうです。つまりそもそも修験道は、お寺さんがおこなっていたものなんです。黄金山神社では護摩を焚いていますが、あれも密教の儀式ですし、神社といっても建物の造り自体をよくみるとお寺に通じているんです。

東北の精神文化の根底には、伝統的に生者と死者との間に「通路」があると言われます。ふたつが断絶されずに、つねに行ったり来たりできるのが特徴です。

例えば、盆踊りは死者が現世に戻ってくる「お祭り」。いわゆるねぶた系や七夕系がそれです。あかりを灯し街中を踊りながら練り歩き、そのあかりに死者が寄り添い、ともに過ごすのが、東北の夏祭りです。

一方、修験道はその逆です。生者が死者の世界に行くこと。つまり人が死んで、死者の世界を体験し、ふたたび生きて戻ってくることです。いま日本に残る修験道は、出羽三山の羽黒修験だけ。僕は盆踊りも修験道も両方とも東北の精神文化をよく現しているのだと思います。

また、風流という観点から見た場合に、ねぶたなどは目で見て楽しめる祭りだから観光化しやすい。一方で、修験道は体験型です。これって意外と外国人ウケがいい。

先日、羽黒山で修験体験のイベントをやった時も、フランス人がいっぱい来ていました。

ぜひ金華山でも、修験道体験をできるようになればいいと思います。例えば、「金華山山伏復興運動」というテーマで、修行を復活させてはどうでしょう。そうなれば観光誘致の目玉にもなるし、きっと重要なコンテンツになっていくと思います。

注目を集める、東北の慰霊文化

牡鹿半島の地形も魅力的です。金華山を頂点にして、だんだんあの世へ近づいていくような地形は、かつて「死者の半島」とも呼ばれていました。牡鹿半島と同じ地形がもし西日本にあったなら、完全に古墳地になっていたでしょう。

金華山にある黄金山神社を参拝することは、死者の世界に触れること。それは生まれ変わることでもあるから、むしろ昔の人にとってはポジティブなことだった。

いまでこそ、死者の世界に行くことはネガティブな印象を持ちますが、21世紀は、そこをもっとポジティブに考えられる思考転換ができたらいいですよね。

そういう意識の変化が結果的にも、東日本大震災の慰霊に繋がるのではないでしょうか。言うだけじゃなくて、実際に自分の身体で踊り、ねぶたを作り、仮面を被り、山伏をやり、自らプラティカルなことをやりながら慰霊する文化が東北にはもともと根付いています。

震災後に、塩竈の沿岸部で七夕祭りが復活したというニュースを聞きました。僕は、そうした東北の慰霊文化にふたたび脚光が集まればいいと思います。

政宗の発想と行動力こそ今の日本に必要なのかもしれない。

Shinichi Nakazawa talks

“The Reason I like Oshika”

アートフェスで蘇らせたいこと

2017年の夏、牡鹿半島を舞台に、僕が制作に参加している「リボーンアートフェスティバル」が開催されます（2016年夏にはプレイベントを開催）。

美しい自然に触れながら、アートを観賞し、美味しい料理に舌鼓を打つ——。昨今のアートフェスは、都会の人々がやってきて、心地よい体験をすることに重点が置かれ、地域おこし的なイベントになっていますよね。でも、僕は、そこにはあまり魅力を感じません。

石巻では、あの震災で多くの人々が亡くなり、多くの家屋も流されてしまった。でも、5年が経過し、新しい人々が移り住み、これまでにない関係性が芽生えています。かつてあった街並みにはもう戻せないけど、だからこそ新たなビジョンを積極的に作っていかなきゃいけない、僕はそう思っています。

伊達政宗にみるジオポリティックス

この地域には、伊達政宗で知られるように、歴史的に興味深い史実が多く残っています。

戦国時代以前の武家政権は天皇と結びつくことで権威付けをしてきました。しかし、戦国時代以後の彼らは自らの権威付けをどうしていくかを真剣に考えたのだと思います。例えば足利義満は、海の彼方の明国を目指しました。今の感覚で言えば権威主義的な行動なのかもしれないけれど、この時代の文明のルーツは中国。そこに権威付けされるのは、天皇よりも上のことだった。だからこそ、義満は明国から「日本国王」という称号を欲しかったのだと思います。

のちの戦国大名は、彼のそういったジオポリティックな思想に影響を受けたと思います。伊達政宗もそのひとりでしたが、彼はより現代的な発想の持ち主だった。頭の中に地球儀が描かれ、西洋世界が見えていた。また、その中心地がローマだとも知っていました。あきらかに彼には、もう明国の時代じゃないという考えがあったのだと思います。だからこそ、使節をローマへ送り、「僕らの相手はローマ法王ですよ」と、徳川権力の鼻をあかしてやろうと考えた。すごく緻密に計算された行動だと思います。

妄想的地球儀という世界思想

伊達政宗のようにスケールの大きな発想をもつ人間が生まれた背景には、仙台から牡鹿半島にかけての地勢的な影響があったのではないかと思います。まず海に開かれていること。そして民族的ベースが海民であること。それらが深く関わっていると僕は思います。そういう意味でも、「慶長使節船ミュージアム」は、いわば、伊達政宗のジオポリティックス的発想の拠点だし、一種の世界思想の原点のような場所です。戦国時代に、日本でこのようなスケールの大きな思想が存在したというひとつの証しにもなります。

復元されたサン・ファン・バウティスタを見ていると、高性能な船を造りだした、当時の船大工の開発力と、それを操縦した船乗りたちの航海技術の高さに感服するばかりです。この船でローマへ渡ろうとした彼らの思いは、妄想的でロマンがあり、ドン・キホーテのようで僕はとても好きです。

伊達政宗はきっと、自らの妄想的地球儀を描きながら、「ローマへ行け」と命じたのでしょう。この発想は、アジアの国々と隣接している西日本には、あまり見られない思想です。

彼のように動かない現状をせせら笑いながら、ジオポリティックな発想で行動していく力。もしかしたら、今の日本に、いちばん必要な行動力なのかもしれませんね。

インタビュー日：2016年2月12日

DEEP & NEW OSHIKA SPOT | 1 | 金華山

現代版 修験道をゆく！

Kinkasan Shugendo: Sacred Shrine for Richness

牡鹿半島の先端に浮かぶ金華山という島。西暦749年、聖武天皇の時代に日本で初めて黄金を産出し朝廷に献上したことから、金を司る金山毘古神（かなやまひこのかみ）、金山毘賣神（かなやまひめのかみ）を奉祀し、金華山黄金山神社が創建された。神仏習合時代には、弁財天を守護神として別当寺を金華山大金寺と称し、時の権力者たちからの多大な御寄進により荘厳美麗を極め、多くの信仰を集めた。恐山、出羽三山と共に東奥の三大霊場とされ、修験者が来山しては修行し、金華山信仰を各地で広めていった。金を司る神と金運・開運の神が宿ることから、「3年連続お参りすれば、一生お金に不自由しまい」という言い伝えが生まれ、江ノ島、厳島、竹生島、天河と共に日本五大弁財天の霊地とされ、商業者も多く来山する。

島全体を神域とし、神の使いとされる神鹿（しんろく）が生息する。金華山と奈良だけで行なわれる年に一度の神鹿角切り行事祭等、独特な行事も多い。他にもニホンザルの生息や、天柱石や千畳敷といった白い花崗岩が美しい景勝地など、自然の特徴を持ち合わせる。

金華山街道という歴史の道

石巻市街から牡鹿半島の先端までを結ぶ、金華山詣でに利用されていた古道がある。昭和50年代後半に建立された「歴史の道」と書かれた碑が各所に残り、碑を辿っていくと牡鹿半島の先端にある黄金山神社一の鳥居に辿り着く。今では杉林が生い茂り、目の前の金華山を眺めることはできないが、かつては一の鳥居から金華山を一望することができた。明治2年の神仏分離令が発せられるまでは、女人禁制により金華山に渡れなかった女性は、ここから金華山を遥拝して帰路に着いたという。

金華山街道は今も山の中に佇んでいる。その一部は道かどうかも分からないほど荒廃しているが、環境省が進めるみちのく潮風トレイル等をきっかけに再度注目を集めて始めている。この道が活用され、魅力的なスポットとして、ふたたび生まれ変われば、現代版の修験道が一層厚みを増すことになるだろう。

かつては縄文時代から人が住み、約1300年も前から守り受け継がれてきた歴史と文化や、それらを創り出した崇高な牡鹿半島の自然。伊達政宗はこの地を建造の地として選び、その崇高さにサン・ファン・バウティスタの運命を託したのかもしれない。

Three-year ritual for financial freedom

It is anciently said that paying a visit to the Kinkasan Koganeyama Shrine dedicated to financial god brings you financial freedom. This old legend is traced back to the fact that the first gold was found in Japan in the mid-8th century and presented to the then Imperial court. Through the reconstruction project, an active plan to bring the ravaged sacred route back to life would give a new shape to the Shugendo ritual.

かつての一の鳥居　鹿井清介氏提供

アクセス

・石巻駅から船着場（鮎川港）までバス（約80分）→船着場から金華山まで 日曜日のみ運航（20分）※チャーター船有り
・女川駅から船着場（女川港）まで徒歩（約10分）→船着場から金華山まで 日曜日・祝日のみ運航（35分） MAP - B

DEEP & NEW OSHIKA SPOT | 2 | サン・ファン館

宮城県慶長使節船ミュージアム

復興の政宗、出航の常長!?

Miyagi Sant Juan Bautista Museum

Secret of Voyage

宮城県石巻市の月浦港。

今から約400年前の1613年10月(慶長18年9月)、仙台藩主伊達政宗の命により使節約180人を乗せた帆船は、この牡鹿半島の入り江からヨーロッパへと出航した。

ここからクルマで20分の海岸沿いには、1996年(平成8年)にオープンした「宮城県慶長使節船ミュージアム(愛称・サン・ファン館)」がある。敷地内には、残された史料等をもとに忠実に再現した、サン・ファン・バウティスタ復元船が係留されている。

この帆船こそ、石巻の沿岸部に古くから伝わる木造船文化の象徴であり、牡鹿半島を望む観光拠点のひとつでもある。

交渉を続けた常長の思い

日本ではじめて太平洋を渡った外交使節。その目的は「メキシコとの通商貿易締結」と「キリスト教布教のための宣教師派遣の要請」だった。

交渉を任されたのは政宗の腹心、支倉常長。彼をはじめとする使節一行は、7年という長い歳月をかけて、現在のメキシコ、キューバ、スペイン、イタリアなどのヨーロ

サン・ファン・バウティスタは、ガレオンと呼ばれる独特な船型をした木造の洋式帆船。全長55.35メートル、総重量約500トン。東日本大震災後、マスト部分に使う木材がカナダから寄付されている。

Sant Juan Bautista steered Hasekura's will for the future

Two-minute drive from Tsukinoura port is Sant Juan Museum. Sant Juan Bautista rebuilt early 1990 based on the dimensional drawing of the ship of the same name in the early 17th century, represents the Oshika Peninsula. Tsunenaga Hasekura, the right arm of the Lord of Sendai Domain, sailed around the world in the 1610s in order to foster international relations. It is still a mystery why he got baptized during the voyage-Is it out of pure faith or negotiation strategy? Japan executing an isolationist policy as well as the Anti-Christian Edicts, one year after his return Hasekura died with an unachieved will.

ッパ諸国を歴訪。通信機器のない時代に、遠く離れた異国の地で、ひたすら交渉を続けた常長の胸中には、いったいどんな思いが去来していたのだろうか。

スペインに残る古文書には、常長が現地の修道院で国王隣席のもとカトリックの洗礼を受けたことが記されている。その行動が意味するものは、純粋な信仰心か、それとも難しい交渉をスムーズに進めるための戦略か。その答えは、いまだ諸説紛々とし、推測の域を出ない。一方、常長が日本を不在にしている間、幕府はキリシタン弾圧と鎖国政策に大きく舵を切っていた。頼みの政宗も、幕府の圧政に従わざるを得ない立場に追いやられていった。

こうした日本の国内情勢が海を越えて、異国の交渉相手にも伝わりはじめると、常長はもうなす術がなかった。

結果的には、何ひとつ交渉の成果を見いだせないまま、1620年9月(元和6年8月)、一行は7年ぶりに日本に帰国。

徳川幕府による禁教体制がますます強化される中で、常長はそれから1年後、失意のままこの世を去った。

支倉常長像（国宝・ユネスコ記憶遺産）
仙台市博物館蔵

慶長遣欧使節は震災の復興事業？

1611年（慶長16年）、三陸沖で大きな地震が発生した。地震の規模は、ほぼ東日本大震災と同等レベルで、とくに沿岸地域の津波被害が甚大だったところも似ており、現在の状況と置き換えると、政宗は地域の復興に全力で取り組んだことが推測される。

常長らを乗せた使節船がヨーロッパへ出航するのは、慶長の大地震から2年後のこと。つまり、このプロジェクトこそが、政宗による復興事業の一環だったのでは、という見方が東日本大震災以降、有力になっている。

震災で打ちひしがれた人々の心に希望と勇気を与えようと、当時最先端の造船技術を利用して、ヨーロッパ外交を目指す。政宗は、慶長遣欧使節を復興のシンボルにして、新たな未来を描いていたのかもしれない。

帆船の勇姿は永遠に

さきの東日本大震災によって、サン・ファン館自体は被災したものの、復元船サン・ファン・バウティスタだけは、押し寄せる津波にも耐え抜いたという。

かつて太平洋の長旅を支えた洋式木造帆船。その優れた耐久性は何の因果だろうか、400年後に再び起きた震災によって、立証されることになった。

今も誇らしげに太平洋の海原を見渡す孤高の帆船、サン・ファン・バウティスタ。威風堂々としたその佇まいは、かつて命がけで海を渡った、常長をはじめとする男たちの勇姿と重なる。

東日本大震災では大津波の直撃を受けた

アクセス

[公共交通機関] 仙石線・石巻線石巻駅からミヤコーバス鮎川線で約30分、サンファンパーク下車（土休日のみ停車）
[自動車] 三陸自動車道石巻河南ICから車で約30分 MAP-C

【 Miyagi Sant Juan Bautista Museum 】
30-2, Omori, Watanoha, Ishinomaki City, Miyagi, 986-2135
Tel:0225-24-2210 / FAX:0225-97-3399
http://www.santjuan.or.jp
Open / 9:30～16:30（entry until 16:00）, 9:30～17:30（August）
Closed / Tuesdays（except national holidays）, New Year holidays

展示室

サン・ファン館の館内にある常設展示室と企画展示室。慶長遣欧使節の歴史や、サン・ファン・バウティスタに関する展示、また政宗と常長らの葛藤など、残された史料をもとに、パネルや人形を駆使し、当時の状況を臨場感あふれるセットで見ることができる。開館20周年を記念して、企画展やパネル展など多くのイベントを開催予定だ。

サン・ファン・バウティスタ 船内

サン・ファン・バウティスタの船内には、約180人の使節が乗船していた。彼らは日本を出港後、約3ヶ月かけてメキシコのアカプルコに入港。1 スペイン人提督ビスカイノと常長の部屋の様子。ふたりの生活様式の違いがうかがえる。2 乗員たちの日常風景である、船内での食事シーン。3 グレートキャビンで船長ソテロ神父や航海士などが集まり、常長も交えて真剣な表情で会議中。4 長旅に必要な帆布や食料を積載したスペース。

サン・ファンシアター

常設の映像プログラムはふたつ。『二つの大津波とサン・ファン・バウティスタ』では、使節船がヨーロッパへ出航する2年前に発生した慶長大地震と使節派遣の関連性について、最新技術を駆使した映像とアニメーションで紹介している。もうひとつは、サン・ファン・バウティスタの航海の模様や常長の動向に迫った『夢の果てまでも』。大航海時代の常長ら使節一行の歴訪を、迫力十分の大型ハイビジョンで堪能できる。

宮城県慶長使節船ミュージアム（サン・ファン館）

〒986-2135 宮城県石巻市渡波字大森30番地2
電話：0225-24-2210 / FAX：0225-97-3399
http://www.santjuan.or.jp

開館時間：午前9時30分〜午後4時30分
※8月中は午後5時30分まで延長開館
※最終入館は閉館30分前まで

休館日：毎週火曜日
（祝日の場合は開館）
及び年末年始

DEEP OSHIKA 6

歴史と浜の暮らしを体感できるディープな牡鹿。

Encounter history and living of fishing villages.

2 迫力のパノラマで半島を一望！

Historic landmark provides panoramic landscape of the peninsula

おしか御番所公園

[Oshika Gobansyo Park]

牡鹿半島の最南端に位置し、金華山や網地島、田代島を望む360°の眺望を楽しむことができる。鎖国政策が強化された江戸時代、伊達藩が外国船を警戒するために建てられた唐船番所があったことが名前の由来。復元された唐船番所や展望棟、アスレチックもあり駐車場や公衆トイレも完備しているのでドライブスポットにもオススメ！ MAP - E

1 透きとおる海と砂浜に囲まれた島

Island blessed with crystalline sea and white sandy beach

網地島 [Ajishima]

金華山の隣に位置する網地島は石巻市街地から定期航路でアクセスできる。東北でも有数の透明度を誇る網地白浜海水浴場は夏には多くの海水浴客を集める。野鳥や豊かな植生が観察できることをから、廃校を改装し自然体験施設「島の楽校」として活用している。島南端の清波岐崎（どうみきざき）から眺める太平洋の景色は圧巻。MAP - D

・石巻駅から船着場までバス（約11分）
・船着場から網地島まで定期航路（約60分）

3 猫がのんびり日向ぼっこする島

Casa of cats beckoning a great catch of fish to the island

田代島 [Tashirojima]

・石巻駅から船着場までバス（約11分）
・船着場から田代島まで定期航路（約50分）

牡鹿半島の南西端に位置し、網地島の隣に浮かぶ島。島民よりも猫の数が多いことから猫の島とも呼ばれている。住民のほとんどが漁師のこの島では、猫は大漁を招くとして大切にされてきた。島の中心部には昔、漁師があやまってけがをさせてしまった猫を祀ったと言われる猫神社も建っている。ロッジやキャンプサイトも利用可。MAP - F

4 石巻産天然鹿のクセになるカレー

Curry rice with venison
you can never get enough of

—

Cafe はまぐり堂 [Cafe Hamaguridou]
(次ページに紹介)

牡鹿半島の名前の由来でもある鹿は、半島全域に生息している。近年では増えすぎた鹿による森林被害も深刻で、積極的に鹿を狩猟することも行われている。そんななかでジビエ料理で使う鹿肉も注目されている。Cafe はまぐり堂(次ページ)では鹿肉を使ったカレーを提供している。

6 浜の女性が紡ぐ鹿角のアクセサリー

Handmade accessories
local ladies produce with antlers

—

OCICA

・Cafe はまぐり堂(次ページに紹介)
・石巻まちの本棚(石巻市中央 2-3-16)
・IRORI 石巻(石巻市中央 2-10-2)など

牧浜のお母さんたちがひとつひとつ丁寧に手仕事で仕上げる鹿角を使ったアクセサリー。漁網の補修糸を編んだカラフルなラインナップはとても魅力的。石巻市内の販売店で販売中。

5 慶長遣欧使節、旅立ちの浜

Village sent the historic mission
out on an ambitious journey

—

月浦 [Tsukinoura]

慶長18年(1613年)に仙台藩主伊達政宗から命を受けローマを目指して使節が旅立ったのがここ月浦。サン・ファン・バウティスタを造船したのもここ月浦ではないかという説もある。かつて使用された南蛮井戸や出帆を記念する碑があり、高台には宮城出身の彫刻家・佐藤忠良作の支倉常長像が建つ。 MAP - G

NEW OSHIKA 6

震災以降に生まれた新しい取組みを発信する牡鹿。

—

Oshika is seeing new projects from the Earthquake.

1 半島の過去・未来を伝える情報空間

Community center to learn the past, present, and future of the peninsula

—

石巻市復興まちづくり情報交流館牡鹿館

[Ishinomaki Community & Info Center in Oshika]

牡鹿半島における東日本大震災での被害状況、復旧及び復興事業の進捗について伝えると共に、地域を愛する人たちが、地域の楽しいこと、好きなもの、誇りについて語り合うことで、地域で守り伝えていくべき「大事なもの」を確認し合い、活動や創造のきっかけをつくり出していく施設。 MAP - H

㊟ 石巻市鮎川浜湊川63
㊐ 9:00～17:00
㊡ 火曜（休日の場合、その翌日）
☎ 0225-98-9950

2 ゆったりと流れる浜の時間が心地いい

Comfortable sense of time of the locals in a cozy café

—

Cafe はまぐり堂 [Cafe Hamaguridou]

牡鹿半島で一番小さな蛤浜にある古民家カフェ。2013年のオープン以来、石巻産天然鹿のカレー、地元食材を使っお惣菜にスイーツ、オリジナルの器など居心地の良い空間を作るため、細部にまでこだわっている。唯一無二の浜時間を求めて遠方からも人が集まる。併設のセレクトショップ高見も併せて訪れてほしい。

MAP - A

㊟ 石巻市桃浦字蛤浜18
㊐ 10:30～17:00
（12～2月10:30～16:00）
㊡ 火曜・水曜
☎ 0225-90-2909

日本家屋を、古民家カフェにアレンジ。アンティークの品々の半分はオーナーの私物だ。

3 女川駅前に生まれた話題の新スポット！

New shopping plaza and spa in front of Onagawa station

—

シーパルピア女川 [Seapal-Pier Onagawa]

住 牡鹿郡女川町女川浜字大原1-4
営休 店舗により異なる
☎ 0225-24-8118（女川みらい創造）

JR女川駅前プロムナードに誕生したテナント型商業交流施設。町民の日常生活を支えるゾーンと女川の新鮮な海の幸を堪能できる飲食ゾーン、魅力的なものづくりを発信するクラフトゾーンに話題の27店舗が軒を連ねる。JR女川駅は気軽に入浴できる町営の温泉施設「女川温泉ゆぽっぽ」も併設している。牡鹿半島を巡ったあとに立ち寄ってみては。

MAP - I

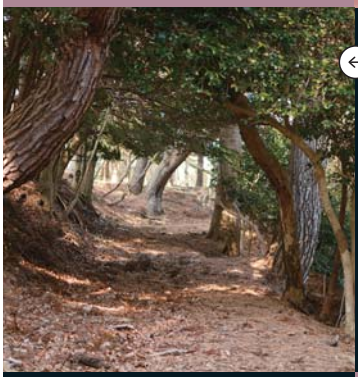
4 地元の漁業を支える浜の新感覚番屋

Newly-built fishermen's spot opens for everyone

—

おしか番屋 [Oshika Banya]

牡鹿半島の先端に位置する鮎川浜の漁港のとなりに誕生した番屋。番屋とは漁師の作業場や休憩所だけではなく情報交換や交流の場。漁業と観光をつなぐため、誰にでも開かれた番屋をめざし2016年2月に完成。牡鹿漁業共同組合が運営し、朝市の開催や水産加工品を生産する新たな拠点として活用される。MAP - J



5 自然、歴史、文化、そして人を結ぶ道

Trail connecting nature, history, culture, and people

—

みちのく潮風トレイル
[Michinoku Coastal Trail]

http://www.tohoku-trail.go.jp/

青森県八戸市蕪島から福島県相馬市松川浦まで歩いていくことのできる一本道が、みちのく潮風トレイル。石巻圏内にあるコースは、主に地域を代表するすぐれた自然や景観地、また地域の人々の暮らしや文化を感じられるような集落など、興味をそそられる地点を中心に通過。地図を手に取りぜひ歩いてこそ感じられる地域の魅力に触れてみてはいかがだろうか。

DEEP&NEW OSHIKA
2016年3月発行

発行	宮城県
制作	ISHINOMAKI2.0
編集	宮下 哲
デザイン	atmosphere ltd.
マップ	尾黒健二
写真	古里裕美 / 平井慶祐 楠瀬友将 / 幸田 森
協力	おしかリンク / FLOOAT, Inc. オンデザインパートナーズ

リボーンアートフェスティバル
[Reborn-Art Festival]

2017年夏、石巻・牡鹿半島を中心に約50日間開催。住民の「生きる力」や「生きる術」に共感した様々なジャンルのアーティストが、東北の自然や豊かな食材、積み重ねられてきた歴史と文化を舞台として、地域に暮らす人々とともに繰り広げるお祭り。地域の魅力をあらためて発見・発信することで地域の未来を形作る。

6 「生きる術」に触れるアートフェスティバル

Art festival in summer of 2017: Energy and means to live by

アクセス

■ 車でお越しの場合

【鮎川浜まで】三陸自動車道石巻河南I.C→県道16号線→国道398号線→万石橋→県道2号線(石巻-鮎川線)→鮎川浜(約50分)

【女川町まで】三陸自動車道石巻女川I.C→国道398号線→石巻大橋→牧山トンネル→国道398号線→女川町(約30分)

■ 公共交通機関でお越しの場合

【鮎川浜まで】

JR仙台駅(仙石東北ライン)→JR石巻駅(約60分)→JR石巻駅からバス(宮城交通バス)→終点鮎川港下車(約1時間30分)

【女川町まで】

JR仙台駅(仙石東北ライン)→JR石巻駅(約60分)→JR石巻駅(石巻線)→JR女川駅(約30分)

Access

JR Tokyo sta. (Tohoku Shinkansen bullet train) → JR Sendai sta. (90min)
JR Sendai sta. (Senseki-Tohoku Line) → JR Ishinomaki sta. (60min)

【 To Ayukawa 】 JR Ishinomaki sta. (Miyagi-Kotsu Bus) → Ayukawa (90min)

【 To Onagawa 】 JR Ishinomaki sta. (Ishinomaki Line) → JR Onagawa sta (30min)